



TITLE:

天文語彙(第十):天界第十二號附録

AUTHOR(S):

海老, 恒治

CITATION:

海老, 恒治. 天文語彙(第十):天界第十二號附録. 天界 1921, 1(12): 37-40

ISSUE DATE:

1921-10-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159624>

RIGHT:

天界第十二號附錄 (大正九年十二月廿四日第三種郵便物認可)
 (大正十年十月廿四日印刷同二十五日發行)

天文語彙 (第十)

海老恒治編

(次の部……續々)

さんせいてん近星點 (Periastron)。連星の軌道上に於て相互の距離が最小の場所を云ふ。(連星を見よ)

さんちてん近地點 (Perigee)。地球を廻る月の橢圓軌道上に於て地球に最も近い點(月の軌道を見よ)。太陽の場合にも相對的に地球の周圍を廻ると考へて最も近い點を近地點と呼ぶ。

さんてんげつ近點月 (Anomalistic Month)。月が近日點を出發して再び近日點に歸る迄の日數で二七日一三時一八分三三秒。之が恒星月よりも長いのは近日點の順行運動に由るのである。

さんてんねん近點年 (Anomalistic Year)。太陽が近日點から再び近地點に歸る迄の日數或は地球が近日點から近日點に歸る迄の日數で三六五日六時一

三分五三秒。之が恒星年よりも長いのは近日點の運行によるのである。

くの部

くうかん空間 (Space)。カントに由れば空間は我等が持つてゐる認識作用の根本形式の一つであるが、實際問題としては吾人は物質の存在に由つてのみ此の空間の擴りを知る事が出来る。之は相對論者も認める所である。ユークリッド幾何學に由つて我等は空間の物體の位置を三次 (Three Dimensions) で表はす。天文學上に於ても空間の擴りは星の擴りに由つて知ることが出来る。例へば太陽系の空間は海王星の距離迄であり、我が銀河宇宙の空間は銀河の最遠星 (距離約一萬光年) 迄である。それ以上尙星雲や星團の存在する空間も考へられて居る。

くじやくざ孔雀座 (Pavo)。バイエル星座の一つで射手座の遙か南方にある。毎年九月南中するが、臺灣に行かなければ見得ない。ア星が二等星が三等其他は皆四等以下である。

くじらざ鯨座(Cetus)。トレミー星座の一つで、魚座と牡羊座の南に隣つて居る。毎年十二月頃南中する。二等星一つ、三等星四つ。オ星は一名ミラと云ひ有名な變光星である。ガ星は七等の伴星を持つた二重星で距離二・五秒である。

くつせつぼうえんさよう屈折望遠鏡(Retracting Telescope)。對物鏡にレンズを用ゐた望遠鏡で通俗に單に望遠鏡と云へば之を意味する。ガリレオ式とクプレル式と云はゞ二種ある譯だが今日は學術上専らクプレル式即ち接眼鏡に凸レンズを用ゐたものが用ゐられる。始めの頃色消法が不明であつたため無暗に望遠鏡の長さを何百尺と云ふ程増したりしたものであるが、ドロンドの發明に由り色消は理論上成功した。今日世界最大の屈折鏡はエルクス天文臺にあつて口径四〇呎次はリック天文臺の三六呎である。(望遠鏡を見よ)

グッドリック(J. Goodrich)。聾で聾の素人天文學者。十八世紀末變光星界の先驅として活動した。一七八三年にアルゴール星の週期を觀測決定し、又其翌年琴座ベ星の變光を發見した。若年にして

死す。(一七六四生
一七八六死)

クラーク(Miss A. M. Clerke) 英國の女流篤學家。生來の蒲柳の質で唯熱心に書を読み、天文學を好んだ結果「十九世紀の天文學史」を著して大いに其名を認められた。ジル氏等に知られ厚く交はつた喜望峰天文臺へも出遊したが觀測の見るべきものをなさなかつた。然し天體物理學上には一見識を持つて居つた。晩年 Problems in Astro-physics. System of Stars の二大著があつた。(一八四二生
一九〇七死)

クリスチー(Sir W. H. Christie)。英國グリニチ天文臺長兼第八代勅任天文博士(在任期間一八一
一九一〇年)一八七〇年以來同天文臺に働きエアリ博士の指導を受け特に天體寫眞に熱心であつた。(一八八生
現在)

グリニチ天文臺(Greenwich Royal Observatory)。天文學及航海學の基本智識の爲めに一六七五年創立代々英國王の勅任天文博士が臺長である。創立以來の臺長は左の如し。

フラムステッド(J. Flamsteed)
ハレー(E. Halley)

一六九二—一七四三
一七二七—一七四二

ブラッドノー(J. Bradley)

ブリス(N. Bliss)

ブスケリーン(N. Maskelyne)

ポンド(J. Pond)

ヘアリー(G. B. Airy)

クリスチー(W. H. Christie)

ダイソン(F. W. Dyson)

1792—1844

1788

1731—1811

1711—1784

1791—1869

1811—1890

1810—今日

此天文臺は、各時代に他よりも率先して實際觀測を勵んだので其結果は世界的の信用を博し實に英國天文學の精華である。ヘアリーの時よりして新大赤道儀寫眞鏡、地磁氣及氣象觀測器械、天文分光器等の新式機械をも採用したが尙子午環、經緯儀等の基本機械も今日活用して居る。又國際條約により此天文臺の大子午環は世界の經度の原點になつてゐる。

グリニチ 平均時(Greenwich Mean Time)。英國グリ

ニチ天文臺の大子午環(Large Meridian Circle)の平均太陽時を云ふ。之は世界全體の標準時間として多數の天文學者及航海者に用ゐられて居る。又各國の標準時が多く此グリニチ時と密接の關係を保つて居る。

クリプトン(Krypton)。【化學元素の一つ。極めて小

量丈け我地球の空氣中にある。

グールド(B. A. Gould)。南米コルドバ天文臺長。

始め獨逸に遊びグッチンゲンでガウスに學んだ。

一八四九年北米合衆國に歸つて Astronomical Journal を創刊した。其後ダッドレー天文臺長となり次で又ハーヴァードに轉じた。一八七〇年聘せられて南米アルゼンチンのコルドバ天文臺長となり十五年間其職に在つた。ケープ天文臺と相應じて南天の觀測をなし重要な恒星表を屢々發表した。(一八二四生 一八九六死)

グルームブリッジ 星表(Groombridge's Catalogue)。

グルームブリッジ(S. Groombridge)がブラックヒース(Blackheath)の天文臺で觀測した星表で週極星四二四三箇を載せてゐる。

此星表の第一八三〇番星は毎年の固有運動は七・〇三秒に達し有名な星である。(光度六・五等)

グレゴリー 曆(Gregorian Calendar)。一五八二年羅

馬法王グレゴリー十三世に由つて採用された曆を云ふ。之れ以前は羅馬のジュリウス曆即ち平年を三六五日とし四年に一度の閏年三六六日を置いたのを使つて居つたが、天體觀測の結果日附と太陽

の位置に誤のあるのが知れた。以後四百年間に三度閏年を廢し尙日附は法令を以て一五八二年十月四日の翌日を同十月十五日と呼ばしめた。此曆は其後漸時各國に行はれる様になつた。我國では明治三十一年五月十一日附勅令第九十號。

神武天皇即位紀元年數ノ四ヲ以テ整理シ得ベキ年ヲ閏年トス。但シ紀元年數ヨリ六六〇ヲ減ジ百ヲ以テ整除シ得ベキモノ、中更ニ四ヲ以テ其商ヲ整除シ得ザル年ハ平年トス
に由つて之が採用された。

此曆法は太陽運動と正確に一致するものではないが三千年で一日の誤差を生ずるに過ぎない。

クロノグラフ印時器(Chronograph)。モールス(Morse)の作つた電信受信器を應用したもので紙の上に時刻の流を記す器械である。普通子午儀觀測等の場合に用ゐ、精度は百分の一秒迄及んでゐる。

クロノメートル(Chronometer)。クロノメートルとも、時辰儀とも云ふ。正確なる時間を計るために造つた時計にして、特に外部の動搖の影響を受けないやうに、エスケープには天府を用ゐてある。

廣く航海者が船中で用ゐ、其の他一般に運般用の精密時計として用ゐられる。今は瑞西國ナルダン(Nardin)會社製のもの最優良品との評である。

クロンメリン(A. C. O. Crommelin)。グリニチ天文臺の觀測者。一九〇九年ハレー彗星に付いて、コーウエル氏(Cowell)と共に研究論文を發表して有名になつた。一九一九年には又ブラジルへ出張して日蝕皆既を觀測し恒星の寫眞を撮影してアインスタイン氏の相對性原理の爲の有力なる證明をした。(生)

くわいさねん回歸年(Tropical Year)。太陽が春分點を出發して後再び春分點に歸つて來る迄の時間を云ふ。其日數は三六五日五時四八分四六秒。但し之れには春分點の移動を算入したものであるから地球の正味の一回轉の長さではない。

ぐわかさ畫架座(Pictor)。南天のラカイユ星座の一オリオン座から五〇度も南にあつてカノーパス星の直ぐ西にある。毎年二月夕方南中す。三等が一つ、四等星が二つ、其他皆微光。イ星は有名なる二重星。